

Title	懐徳堂研究 第2号 編集後記
Author(s)	
Citation	懐徳堂研究. 2011, 2, p. 140-141
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24637
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

かの重要な成果を上げた。平成二十二年、センターは二年目の活動に入り、いくつ字山が改組され、新たに懐徳堂研究センターが発足した。平成二十一年(二〇〇九)年五月、旧来の懐徳堂セン

調査を完了し、目録を作成するに至った。目録作成である。兵庫県の旧大庄屋であった三木家には、目録作成である。兵庫県の旧大庄屋であった三木家には、懐徳堂関係人物の書簡を初めとして貴重な資料が含まれ懐徳堂関係人物の書簡を初めとして貴重な資料が含まれまずは、センターが受託している三木家文書の整理とまずは、センターが受託している三木家文書の整理と

念会の記念事業の一環として懐徳堂展が開催された。 本号掲載の 懐徳堂研究センターは大いに貢献 の準備 次は、 懐徳堂展である。 題簽・目録作成、 「懐徳堂展と資料修復」 創立百周年を迎えた懐徳堂記 設営、 した 撤収などの各作業に、 参照)。 (詳 細については そ

『越俎弄筆』に取り組んだ。「聖賢扇」とは、履軒が扇面化を進めているが、今年度は、中井履軒の「聖賢扇」と化を進めているが、今年度は、中井履軒の「聖賢扇」と究センターでは、懐徳堂文庫に含まれる貴重資料の電子第三は、デジタルコンテンツの制作である。懐徳堂研第三は、デジタルコンテンツの制作である。懐徳堂研

の表に ジタルコンテンツ「聖賢扇」を制作した。 対照させてみてはじめてその面白さが分かる。 も酒とは思えない)と酷評する。この資料は、 操作で扇の両面を回転させ、 の論敵であった荻生徂徠については「鬼ころし」(とて の人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。たとえば 孔孟は 歴 代 「伊丹極上御膳酒」と絶賛する一方、 の聖賢や学者の名を朱筆し、 閲覧することができるので 裏面にはこれら 簡単なマウス そこでデ 表と裏を 懐徳堂

立が獣体解剖を行い、 ある。 それは杉田玄白らによる れている。いずれも「WEB懐徳堂 http://kaitokudo.jp/_ るほか、目次から該当ページへのジャンプ、画 俎弄筆』の全ページを、本をめくるようにして閲覧でき で公開している。 縮小など、デジタルコンテンツならではの機能 であった。このデジタルブック を彩色筆写し、 のに立ち会い、 また「 「越俎 弄筆』 この経験を基に、 解説を加えた。 は、 人体との 『解体新書』完成の前年のこと 履軒の 対照確認を行 本書の成書は安永一 『越俎弄筆』では、 医 自ら人体解剖図十五葉 書。 履軒 は、 面 おうとする が搭載さ の拡大・ 麻き 田だ 越 剛さ

。今号も充実した論考・報告によって構成することがそして最後は、この『懐徳堂研究』第二号の刊行であ

る。

きたい。 できた。第三号の刊行に向けてさらに活動を継続してい

(懐徳堂研究センター長 文学研究科教授 湯浅邦弘

釜田啓市(かまた・けいいち) 清真学園高等学校教諭

び申し上げます。

ここに掲載し、釜田氏および読者の皆様に深くお詫

筆者紹介欄におきまして、執筆者のお一人であった 釜田啓市氏のご芳名が欠落しておりました。改めて

『懐徳堂研究』創刊号(平成二十二年二月)の執